

音楽アーティスト科 ダンスヴォーカルパフォーマーコース 受講科目一覧 1年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅰ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅰ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅰ	72	2	4
演習	共同演習Ⅰ	68	2	4
講義	音楽史Ⅰ	68	2	4
講義	アイソレーションⅠ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/ダンスパフォーマンス実習Ⅰ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅠ	68	2	2
実習	パフォーマンス実技Ⅰ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル発展Ⅰ	68	2	4
合計		888	28	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。					
到達目標					
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕事内容について学びます。 後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来までの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～18回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 19～21回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 22～25回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRACの問題点 JASRACの功罪などについて理解する 著作者に關わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 26～28回目	著作者に關わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に關わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に關わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 29～31回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 32～36回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルグループⅠ		授業形態 / 必選	演習	必修	
	学則別表上表記	共同演習Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
多くの難易度の高い楽曲(GOSPEL・ミュージカル楽曲・POPS等)を通し、心の解放・ハーモニーへの理解、発声や歌唱法を学ぶ。 時にはリードボーカルのオーディションを行い、生徒同士で競争することによる技術向上を目的とする。						
到達目標						
・大人数の中で歌うために必要な知識や技術の習得。ハーモニー(ハモリ)を作ることの技術習得。 ・グループの一員としてステージに立ち、時にはchoirとして、時にはリードボーカルとしての歌唱法や立ち振る舞い、パフォーマンスを学ぶ。 ・ハモることへの不安がなくなる。 ・心を解放させ身体全体を使ってステージパフォーマンスができる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	パート分け(女子2パート、男子2パート) 1曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 4～7回目	2曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 8～10回目	3曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 11～13回目	4曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 14～17回目	前期まとめ (1～4曲目の復習) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 21～24回目	6曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 25～27回目	7曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 28～30回目	8曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 31～34回目	過去にやった曲の中からLIVE WEEKに向けて選曲、復習、パフォーマンス込みで練習 ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グループボーカルを経験することにより、ハーモニーに対する不安感を拭えます。また、普段は聴かないようなGOSPEL等を聴くことにより、リズム感や発声法を学ぶこともでき、大人数で声を出すことにより、心の解放や私たちの声を持つパワーを直接感じることもできます。この授業を通して様々なジャンルに触れ、多くのことを学ぶきっかけにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	パフォーマンスの歴史と体系Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ダンスヴォーカルパフォーマー/ダンスパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	DA PUMPの全国ツアーに帯同し、振付・サポートダンサーとして出演。 また、テレビCM「TAX」にメイン出演。その他、福岡発のアイドルグループ「LinQ」の総合演出・振付を行うなど、多方面にて活躍中。					
授業概要						
ダンススタイルが誕生した背景や音楽、リズムなどの特性を把握し、あらゆるジャンルに精通したプロのダンサーを目指す。 特にアメリカ音楽の歴史と共にダンスへの関わりを習得する。						
到達目標						
・ダンスへの理解を深める為に音楽のリズムやノリを理解し、ダンススタイル全般への理解が充実する。 ・音楽との関わり方をダンスで表現できるようにする。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1600年代アメリカの奴隷制度からのフィールドハラー
【前期】 4～7回目	ブルース・Jazz・ゴスペルの歴史とダンス
【前期】 8～10回目	Soul Musicの歴史とダンス
【前期】 11～13回目	Funk Musicの歴史とダンス
【前期】 14～17回目	Disco Musicの歴史とダンス ■前期試験：筆記試験により「前期学習内容の理解度」を評価する。
【後期】 18～20回目	Go Go・New Jack Swingの歴史とダンス
【後期】 21～24回目	HipHop Musicの歴史とダンス
【後期】 25～27回目	House Musicの歴史とダンス
【後期】 28～30回目	日本のダンスの歴史①
【後期】 31～34回目	日本のダンスの歴史② ■後期試験：筆記試験により「後期学習内容の理解度」を評価する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する筆記試験により「理解度」を評価する。
学生へのメッセージ	座学で音楽やダンスの歴史を学ぶ機会はなかなかありません。ダンスの知識、イメージを深めていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ダンスベーシック&アイソレーションⅠ		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	アイソレーションⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスヴォーカルパフォーマー/ダンスパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	小学生からダンスを始め、幼い頃からアーティストのライブのサポートダンサーやMV出演など、様々な経験をする。アーティスト育成スクールの全国から選出されたメンバーの1人として活動経験もあり、ダンサーとしてだけでなく、アーティストとしてのスキル、在り方、知識等も学んでいる。現在は培ったアーティストとしての意識を、ダンサーとして表現していき、福岡を中心に様々なスクールでの講師や、メジャーシーンへ振付提供や出演等の活動をしている。					
授業概要						
HIPHOPのベーシックを中心に、アイソレーション、ステップ、コンビネーションの強化を図ります。 また、ダンスヴォーカルやパフォーマンスを行う上で必須条件となる基礎体力と筋力を身につけるとともに、ダンスの技術(ステップ・アイソレーション等)、リズム感、表現力を養い、完成度の高いパフォーマンスを目指します。						
到達目標						
・ダンスの基礎を理解するとともに、基礎体力の増加を図ります。 ・ベーシックを中心に課題曲を通して、振付技術の習得を目指します。 ・技術面だけではなく、パフォーマーとしての個性のある表現力を養います。 ・即戦力になるダンサーを目指します。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・ストレッチ、体力アップ、体幹トレーニングの習得。(身体を動かす身体に整える)
【前期】 4～7回目	・アイソレーション、リズムトレーニングの理解と習得。
【前期】 8～10回目	・HIPHOPベーシックの中心ステップを習得。(ボックス・チャールストン・スマーフ等)
【前期】 11～13回目	・基礎トレーニング強化＋習得したステップのコンビネーションを制作。
【前期】 14～17回目	コンビネーションの強化＋構成制作。練習後、発表会を行う。 ■前期試験：課題曲を通して、「基礎力 / コンビネーション / 振り付け」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	・アイソレーションのレベルアップと強化。 ・カルチャーステップ習得。
【後期】 21～24回目	・ステップのレベルアップと強化。 ・ロック、ソウル、パンキング等、ジャンル毎のベーシックを習得。
【後期】 25～27回目	・前期に学習したムーブの復習。 ・振り付け制作と練習。
【後期】 28～30回目	・振り付け強化＋構成制作と練習。
【後期】 31～34回目	発表会の実施。 ■後期試験：課題曲を通して、「基礎力 / コンビネーション / 振り付け」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「基礎力 / コンビネーション / 振り付け」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ダンスの面白さ、深さ、歴史などについて基礎から学習していきます。 ダンスベーシック、アイソレーションはすべてダンスジャンルに必要なスキルです。 最終段階ではベーシックを中心とした振り付けを自分で制作する。そして、発表出来るようになるまでが目標です。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヒップホップⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスヴォーカルパフォーマー/ダンスパフォーマー				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	EXILE、TRF等のメジャーアーティストのツアーバックアップダンサーをこなし、自身でもダンサーとして振り付け等を行う。				

授業概要 ヒップホップダンスの基礎的なステップとスキルの習得とその基礎知識の理解。自由であるヒップホップは様々な時代、ジャンルやスタイルを取り込んでいるので「オールドスクール」「ミドルスクール」「ニュースクール」の3つに分類されたジャンルを中心に理解し、習得を目指す。(現代的なリズムのダンス、BBOYING、POPING、LOCKINGなど他)
到達目標 ・ヒップホップダンスの基礎ステップやリズムを習得、理解する。 ・様々な曲にのり踊る事ができるようベーシック、リズムやアイソレーションを活かし、幅広いヒップホップにのせて踊る。 ・「オールドスクール」「ミドルスクール」「ニュースクール」に触れ理解する。 ・ジャンル別のステップを踊る事ができる。 ・ヒップホップの曲や年代別の曲で同じスタイルの踊り、多様で自由な踊りを知る事ができる。

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	様々なヒップホップの曲のリズムを理解、把握。ヒップホップに乗せてリズムやアイソレーションの練習。基礎体力、筋力の上昇の為の筋トレ。基礎ステップの把握、習得。
【前期】 4～7回目	基礎ステップの習得。基礎ステップの組み合わせルーティーンを踊れるよう身に付ける練習。ヒップホップに乗せリズムやアイソレーション、ステップを組み合わせルーティーン、振付を練習。
【前期】 8～10回目	基礎ステップ、必修ステップを習得。多くのバリエーションでステップを組み合わせせも身に付ける。ステップ、リズム、アイソレーション、ポーシングの組み合わせルーティーンで楽曲のワンコーラスを踊る練習。
【前期】 11～13回目	基礎ステップ、必修ステップの習得復習、クオリティ上げる反復練習。【課題曲1】学んだ内容やプラスαの振付を理解習得。仕上げ、前期テストを通して基礎ステップ、必修ステップの名前やクオリティをチェック。課題曲1の発表。
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】実施試験の成果、結果を踏まえて個々へのフィードバックとアドバイス。後期に向けての個々の細かい修正ポイントや、技術向上。体幹作りとアイソレーションをレベルアップアップしたボディーコントロールの練習。 ■前期試験:課題曲を通して、「リズム(ダンス感)/知識/クオリティ/ニュアンス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	前期フィードバックを踏まえ練習、復習、改善。応用ステップを習得。「オールドスクール」に触れ、ヒップホップにも使われる技やステップ、ノリを理解習得。【振付1】それぞれの要素ヒップホップを組み合わせた振付を習得。
【後期】 21～24回目	振付1の復習、クオリティ上げ。「ミドルスクール」に触れ、ヒップホップにも使われる技やステップ、ノリを理解習得。【振付2】それぞれの要素ヒップホップを組み合わせた振付を習得。ソロやフリースタイル、自由に踊れるよう練習。
【後期】 25～27回目	振付2の復習、クオリティ上げ。「ニュースクール」に触れ、ヒップホップにも使われる技やステップ、ノリを理解習得。【振付3】それぞれの要素ヒップホップを組み合わせた振付を習得。ソロやフリースタイル、自由に踊れるよう磨く。
【後期】 28～30回目	振付1.2.3の復習。ソロ、フリースタイルを磨く練習。自分で振付を考えてその場で発表。後期テスト【振付1.振付2.振付3】の中から1～3課題としていた振付の実施。「オールドスクール」「ミドルスクール」「ニュースクール」の中よりステップを実施、ステップ名を答える。
【後期】 31～34回目	【後期・最後まとめ】後期試験の成果、結果を踏まえたフィードバックと改善アドバイス。レベルアップの為の要素。2年生に向けての、全般的な身体の使用方や細かい自己の身体の動かし方を活かせる為の練習、意識、アドバイス。 ■後期試験:課題曲を通して、「リズム(ダンス感)/知識/クオリティ/ニュアンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム(ダンス感)/知識/クオリティ/ニュアンス」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ヒップホップは音楽に乗って自由に踊ることが特徴で、ソウルダンスやジャズなど、他ジャンルのダンス要素を取り入れるなど、時代によって新しいスタイルが生まれ、進化してきてるダンスです。曲から踊りまで幅広く様々なノリも含めマスターすることで、より自由に楽しく踊る事ができるし、ダンサーの仕事としても必須なジャンルとなります。楽しみながらカッコよく踊れるように頑張りましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニングⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。						
到達目標						
・ストレッチ、筋力トレーニングにより、歌える体を作っていく。 ・様々なスケールを用い、主にチェストヴォイスを鍛えて地声強化。 ・ヘッドヴォイスを学ぶことで、響く声、共鳴を身に付ける。 ・様々な声色(チェストヴォイス、ミックスヴォイス、ヘッドヴォイス)を習得し、歌唱へ反映させていく。 ・相対音感トレーニングにより、音感を高めていきます。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ編 ～発声に入る前の準備運動～ / ストレッチ・筋トレ・リップロール・ハミング
【前期】 4～7回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方
【前期】 8～10回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方、リズムトレーニング
【前期】 11～13回目	裏声、ミックスヴォイス強化編 ～裏声強化のための発声練習法の取得～ / 声の種類について、息のコントロール、後ろ側の響きと前側の響き
【前期】 14～17回目	反復練習 / 地声強化のための課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去前期試験例：筆記、発声の実技試験により「練習メニューの理解度、取得度」から到達点を確認する。
【後期】 18～20回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 21～24回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 25～27回目	反復練習 / 共鳴移動のための課題曲（音域の広い楽曲の選曲し歌唱の中で共鳴移動を実践する）
【後期】 28～30回目	応用練習 / 様々な声色のための課題曲（別の音域を複数人で歌うことで相対音感も養いつつ、美しいハーモニーに必要な声色で歌唱してみる）
【後期】 31～34回目	総合的反復練習 / 各自課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去後期試験例：各自指定された楽曲を歌唱。「総合的な完成度」から到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング/ ピッチワークアウトⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/ダンスパフォーマンス実習Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーデビュー。TVCMソング「マツモトキヨシ」他歌唱多数。 並行して、ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元生徒はDAIGO、太田在etc)の指導を行っていた。 近年は80'sbar reflexハウスバンド歌手として毎週末stage歌唱、DISCO DJうらりーな、演劇ミュージカル出演活動もしている。昨年までコミュニティラジオ天神でサブパーソナリティもしていた。昨年デビューした福岡アイドルchitchatの専属ヴォーカルトレーナーもデビュー前から現在している。					
授業概要						
譜面読みを用いた、ピッチ鍛錬実技トレーニング。音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聴き取り、演奏や譜面におこすことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。						
到達目標						
・歌唱の際のピッチにフォーカスしてトレーニング方法を学び、音感を磨いていく。 ・メロディーを譜面で読める様になり、歌唱に落とし込めるようになる。 ・自身の歌唱時の発声レンジを知り、レンジを広げたり得意なレンジを知ることで歌唱に活かしていく。 ・イヤートレーニングも行い聴音力を向上させる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 4～7回目	インターバルの紹介、読譜。イヤートレーニング。跳躍の無いメロディ聴き取り。
【前期】 8～10回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。スケールからキー(root)を聴き取る。
【前期】 11～13回目	ハモリ、123メロディー発声、タイと付点子音。ハンドクラップでリズムを感じる。
【前期】 14～17回目	5度圏理解、リズム聴き取り(イヤトレ)、Gメジャーメロディ譜読み。 ■前期試験:「イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	16分音符リズムトレーニングハンドクラップ。Gメジャー、Fメジャー譜読み。
【後期】 21～24回目	跳躍したメロディ聴き取り、譜読み。
【後期】 25～27回目	付点リズムトレーニング、メロディ聴き取り、#キー譜読み。
【後期】 28～30回目	シンコペーションリズムトレーニング。リズム聴き取り。#系メロディ譜読み。
【後期】 31～34回目	ヒット曲のメロディ譜読み。 ■後期試験:実技試験「リズム譜読み / イヤトレカ / 跳躍メロディ読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解/イヤトレカ/読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	いろんなメロディ譜読みをして、自分が歌いたいメロディを確実にしてヴォーカル口力の基礎の音程発声安定感を養いましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスヴォーカルパフォーマー/ダンスパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	音楽大学ミュージカル科首席卒業。声楽歴25年、バレエ・ジャズダンス歴15年、「タイムフライズ」・「ゴースト」・「魔法のオルゴール」などミュージカル多数出演。 水樹奈々アリーナコンサート、白寿ホールコンサート、その他コンサートMCやレコーディング、TBSドラマなども出演。 歌唱・ボイストレーニング講師として、AKB48、HKT48、スターダストプロモーション福岡、ばってん少女隊のボーカルコーチ、子役から劇団四季劇団員指導なども行う。また、コーチングの国際資格を活かし、メンタルサポートも行う。					
授業概要						
バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業が進んでいきます。 自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で確立していきます。						
到達目標						
自ら選曲した一つの楽曲の中で、音程、リズム、などの観点から『基礎的な技術』を、ダイナミクス、魅せ方(パフォーマンス)などの観点からは『技術的な表現力』の取得をしていきます。そこに、同じ楽曲を数週間歌い続けていく中で考察し、深めた、その楽曲への自分的解釈を足すことで『自分の歌』にできるシンガーを目指します。 また、自分の歌唱を客観視できるようになるため、他者の歌を分析することで、聞く力、気づききっかけを養っていきます。 ここで得た''歌唱力''を用いて「人に届く歌」が歌えるようになること、それが「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」へと繋がるようにサポートしていきます。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【自由曲①(得意ジャンル)】持ち味、武器となる部分を見つけていきます。
【前期】 4～7回目	【自由曲②(苦手ジャンル)】苦手な分野にトライす、苦手克服を目指します。
【前期】 8～10回目	【自由曲③(ジャンルレス)】ジャンルに囚われず、今、自分にとって必要な要素を取得することを目的として選曲していきます。
【前期】 11～13回目	【自由曲④(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。
【前期】 14～17回目	【自由曲(アドバイスの必要な楽曲)】テストに向けた候補曲や、LIVE WEEKでの歌唱曲など、今アドバイスが欲しい楽曲を選曲します。 ■過去前期試験例:(ジャンルのみを指定)課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【自由曲⑤(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 21～24回目	【自由曲⑥(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 25～27回目	【自由曲⑦(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 28～30回目	【自由曲⑧(完全自由曲)】一年間の集大成となるような難易度の曲を選曲します。憧れていたけど歌ってこなかった曲、自分にとって少し難易度の高い曲を選ぶことで現在地を確認する。
【後期】 31～34回目	【自由曲(①～⑧より選択)】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことで、前期の自身と比べることができ、より深く自身の歌唱力と向き合っていきます。■過去後期試験例:自由曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歌うことを職業にしていくためには、技術は絶対に必要になってきます。この技術を取得し続けるためには、自分で課題を見つけ、自分で課題を解決していく力を身につける必要があります。その一連の流れが一人でできるようになるための練習をこの授業の中で学んでいきます。 まずは気づくこと。知ること。そこから始めていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ジャズⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	パフォーマンス実技Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスヴォーカルパフォーマー/ダンスパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	・堂本光一主演ミュージカル「Endless SHOCK」、亀梨和也主演ミュージカル「DREAM BOYS」ダンサー出演 ・東京モーターショー、プロモーションビデオ「no more」「RESCUE」ダンサー出演					
授業概要						
バレエのバーを用いて、ジャズダンスの基礎的な動きをマスターし、様々な楽曲を表現できる技術を習得します。						
到達目標						
・基礎体力、柔軟性、体幹がなぜ必要なのか理解する。 ・バレエの基礎的な体の使い方を理解する。 ・ジャズダンスが踊れるようになる体の作り方を理解する。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	基礎の動きの説明と理解。(ひきあげ、アンデオール、ポードブラ)
【前期】 4～7回目	フラットバック、プリエ、タンジュ、デガジュ、基礎の動き、柔軟性、体幹の強化。
【前期】 8～10回目	アンデオールを保ったまま、プリエ、タンジュ、デガジェ、ロンデージャンを身につける。
【前期】 11～13回目	ルルベアップとアテールをしっかり使えるようになる。
【前期】 14～17回目	ジャズの基礎的な動きを用いた振付の練習と前期の振り返り。 ■前期試験:ダンスの実技を通して「楽曲に合った動き / 振り覚え / 理解度」の3項目の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	今までの動きを、片足やルルベや移動しながらスムーズに行える様身につける。
【後期】 21～24回目	つま先から頭の先、指先まで意識しつつ基礎の動きが行えるよう身につける。
【後期】 25～27回目	身体がぶれず、しっかりと床を押してジャンプが出来るように身につける。
【後期】 28～30回目	ジャズの基礎ターン(ピルエット)を一周左右できるよう練習。
【後期】 31～34回目	一年間の動きを入れた、ジャズの振付の練習と前期、後期の振り返り。 ■後期試験:ダンスの実技を通して「楽曲に合った動き / 振り覚え / 理解度」の3項目の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲に合った動き / 振り覚え / 理解度」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ダンスに必要な基礎の動き、体幹などを身につけることができます。柔軟性も身につけてくるので様々な動きに対応できるようになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスヴォーカルパフォーマー/ダンスパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	BTSやAKB48など、他多数著名アーティストのバック、サポートダンサーをつとめる他、スタジオインストラクター、コレオグラファー、アーティスト育成、シンガーとしても全国でのライブやラジオ、大物アーティストとの共演やバックコーラスなど他多数。					
授業概要						
様々なスタイルの課題を通して、それらが内包するテクニックやリズム、グループフィールやステージング技術の習得を目指すのがライブ実習。ヒットナンバーのパフォーマンスを通してライブ感やステージ対応の更なるグレードアップをはかります。ダンスグループとしての様々な楽曲での振付、ダンステクニックや基礎技術を身につけ、パフォーマンス・表現力を磨きます。						
到達目標						
・ダンステクニックや基礎技術、全てのパートを含めたフォーメーション、ステージングの習得。						
・体力の向上、リズム感の向上、パフォーマンス、表現力を磨く。						
・グループとして一つの楽曲を創り上げていき、ステージ発表やライブウィークでのヴォーカルを惹きたたせるパフォーマンス・表現力、基礎知識や技術の習得。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【前期】 4～7回目	2曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【前期】 8～10回目	3曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEK リハーサル:課題曲の振付、フォーメーションを揃え、シルエットや自己表現も更に磨き、仕上げる。
【前期】 14～17回目	課題曲の振付、ダンスパフォーマンス・自己表現を交え発表する。 ■前期試験:課題曲のダンス実技にて、「振付 / ダンスパフォーマンス / 表現力 / 平常点」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	1曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【後期】 21～24回目	2曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【後期】 25～27回目	3曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【後期】 28～30回目	LIVE WEEK リハーサル:課題曲の振付、フォーメーションを揃え、シルエットや自己表現も更に磨き、仕上げる。
【後期】 31～34回目	課題曲の振付、ダンスパフォーマンス・自己表現を交え発表する。 ■後期試験:課題曲のダンス実技にて、「振付 / ダンスパフォーマンス / 表現力 / 平常点」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「振付 / ダンスパフォーマンス / 表現力 / 平常点」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	メインダンサーではなく、ダンスヴォーカルグループの中でのダンスパフォーマンス・テクニックを身につけ、ヴォーカルを惹きたたせながら楽曲をより魅力的に表現することが出来ます。それと同時に、体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上、立ち姿やシルエットなどを意識し、曲調に合ったパフォーマンスを見せることが出来ます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科　ダンスヴォーカルパフォーマー/ダンスパフォーマー						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当　■	非該当　□
担当講師 実務経歴	BTSやAKB48など、他多数著名アーティストのバック、サポートダンサーをつとめる他、スタジオインストラクター、コレオグラファー、アーティスト育成、シンガーとしても全国でのライブやラジオ、大物アーティストとの共演やバックコーラスなど他多数。						
授業概要							
様々なスタイルの課題を通して、それらが内包するテクニックやリズム、グループフィールやステージング技術の習得を目指すのがライブ実習。ヒットナンバーのパフォーマンスを通してライブ感やステージ対応の更なるグレードアップをはかります。ダンスグループとしての様々な楽曲での振付、ダンステクニックや基礎技術を身につけ、パフォーマンス・表現力を磨きます。 ※アンサンブル基礎Ⅰの二コマ目として実施							
到達目標							
・ダンステクニックや基礎技術、全てのパートを含めたフォーメーション、ステージングの習得。							
・体力の向上、リズム感の向上、パフォーマンス、表現力を磨く。							
・グループとして一つの楽曲を創り上げていき、ステージ発表やライブウィークでのヴォーカルを惹きたたせるパフォーマンス・表現力、基礎知識や技術の習得。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【前期】 4～7回目	2曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【前期】 8～10回目	3曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEK リハーサル:課題曲の振付、フォーメーションを揃え、シルエットや自己表現も更に磨き、仕上げる。
【前期】 14～17回目	課題曲の振付、ダンスパフォーマンス・自己表現を交え発表する。 ■前期試験:課題曲のダンス実技にて、「振付 / ダンスパフォーマンス / 表現力 / 平常点」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	1曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【後期】 21～24回目	2曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【後期】 25～27回目	3曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【後期】 28～30回目	LIVE WEEK リハーサル:課題曲の振付、フォーメーションを揃え、シルエットや自己表現も更に磨き、仕上げる。
【後期】 31～34回目	課題曲の振付、ダンスパフォーマンス・自己表現を交え発表する。 ■後期試験:課題曲のダンス実技にて、「振付 / ダンスパフォーマンス / 表現力 / 平常点」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「振付 / ダンスパフォーマンス / 表現力 / 平常点」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	メインダンサーではなく、ダンスヴォーカルグループの中でのダンスパフォーマンス・テクニックを身につけ、ヴォーカルを惹きたたせながら楽曲をより魅力的に表現することが出来ます。それと同時に、体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上、立ち姿やシルエットなどを意識し、曲調に合ったパフォーマンスを見せることが出来ます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ダンスヴォーカルユニットⅠ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル発展Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスヴォーカルパフォーマー/ダンスパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	ダンスチーム Mool(モール)に所属。福岡を拠点に AKB48、KAZU(BROWN SUGAR)、比花知春、Alice、fumika 等のバックアップダンサーをつとめる。 2005年よりダンスをはじめ、2014年よりインストラクター、今日に至る。					
授業概要						
シンガーが歌ってダンサーが踊ってバックアップという形だけではなく、全員がヴォーカルでありダンサーで同時に行っていく形もとっていきます。一曲ごとにヴォーカルを交代したりローテーションを回す形でなく、一曲の歌割の中で代わる代わる全員が歌って踊りながらパフォーマンス出来るような技術も意識、習得します。歌も踊りも同時に経験をして、それぞれがアーティストの意識をもっていけるパフォーマンスを目指します。						
到達目標						
・シンガーもダンサーも、お互いの魅せ方、難しさを知る。						
・躍りながら、フォーメーションをしながらマイクの受け渡しなどを体感し、容易にできるようになる。						
・色々な動きや魅せ方をダンスだけ、歌だけでなく同時に行ったり、選択を出来るようにしていく。						
・ダンスヴォーカルとして魅せるパフォーマンス、グループ全体、仲間を感じて一体感のあるパフォーマンスを目指す。						
・歌って踊る、歌いながら踊るを個々にパフォーマンスできるようにする。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ダンスヴォーカルユニットの説明、年間を通してどうやっていくか、イメージ、意識を作る。個々の歌声や特徴を知りつつグループディスカッション。パフォーマンスをするにあたってポイントや要素を学習。リズムやアイソレーションを使ったダンスの基礎練習。声のブレない身体の使い方の学習。【課題曲 1】楽曲の歌詞や主線のキー、ハモリと楽曲振付を覚える。
【前期】 4～7回目	【課題曲 1】振付のクオリティを上げてレベルアップ。マイクを回しながら全員がマイクを持った状態での振付意識、学習。実際に歌唱しながらのダンスを実践していきクオリティを上げる。構成フォーメーション・歌割に沿ったパフォーマンスを高める。
【前期】 8～10回目	【課題曲 2】課題曲1の内容を踏まえながら、活かしより良いパフォーマンスを作っていく。マイク受け渡しなど、振付も踏まえて、より高度に練習。構成フォーメーション・歌割に沿ったパフォーマンスを高める。目線や仕草などオーディエンスを意識した練習。
【前期】 11～13回目	仕上げ、歌や踊りだけでなくフォーメーションもしっかりと仕上げる。【実践形式LIVE授業】仕上げ 課題曲1.課題曲2をオーディエンスが実際にいるステージでのLIVE授業にて披露発表。【ダンスヴォーカル実技】ダンスパフォーマンスをしながら歌唱の実技を確認。
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】LIVE授業と実技テストで披露した課題曲1.課題曲2の成果、結果を踏まえてフィードバックとアドバイス。後期に向けての個々の修正ポイントや、技術向上。ブレない体幹作りとアイソレーションのレベルアップ。 ■前期試験:課題曲を通して「ヴォーカル / ダンス / リズム・ピッチ / パフォーマンス」の4項目の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	前期のフィードバックした内容の改善。ブレない身体、技術向上の反復練習。リズムや基礎の向上練習。【課題曲 3】歌詞、ポイントを押さえた歌唱練習。パート分けのローテーション歌唱。振付、構成を覚え、踊りのクオリティを上げる練習。マイク受け渡しも含めて通して仕上げる練習。
【後期】 21～24回目	課題曲3のダンス、歌唱、フォーメーションのクオリティを仕上げる。【課題曲 4】歌詞、ポイントを押さえて歌唱練習。パート分けのローテーション歌唱。振付、構成を覚え、踊りのクオリティを上げる練習。マイク受け渡しも含めて通して仕上げる練習。
【後期】 25～27回目	課題曲4のダンス、歌唱、フォーメーションのクオリティを上昇させ仕上げる。選択課題曲1 選んだグループで歌割、練習。課題曲1.2.3.4.選択1の複数曲でのパフォーマンスを想定した練習。体力向上を踏まえたトレーニング。LIVEを想定したセットリストでディスカッションの練習。
【後期】 28～30回目	【実践形式LIVE授業】仕上げ 課題曲3.課題曲4をオーディエンスが実際にいるステージでのLIVE授業にて披露発表。【ダンスボーカル実技】レベルアップしたダンスパフォーマンスをオーディエンスを意識しながら歌唱の実技を確認。
【後期】 31～34回目	【後期・最後まとめ】課題曲3.課題曲4の成果、結果を踏まえてフィードバックとアドバイス。最後に課題選択の複数曲で構成したセットリストの披露。フィードバックとアドバイス。一年間のまとめと個々の修正ポイントや、技術向上。 ■後期試験:課題曲を通して「ヴォーカル / ダンス / リズム・ピッチ / パフォーマンス」の4項目の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ヴォーカル / ダンス / リズム・ピッチ / パフォーマンス」の4項目の到達度を評価する。
学生へのメッセージ	ダンスヴォーカルを通して、歌で魅せる、踊りで魅せるだけでなく、歌いながら踊って魅せるという事をやってみましょう。ヴォーカルだけ、ダンスだけでは気付けない魅せ方やニュアンスなどを同時に学習、習得することができます。歌手であるとともに、もう1つの技術であるダンステクニックと魅せ方を手に入れることで、周りとの差をつけることもできます。そしてダンスヴォーカルグループとしてデビューする場合には大きな経験になります。
備考	